

上尾歴史散歩

235 上尾の古い地名をこう

■「紅花栽培創始者七五郎の出身村を歩く」 ～大字上～

「ぐるっとくん」を「消防署上平分署前」で下車し、十メートルも東進するともう目の前は上平分署の敷地である。この地は古くは「上村」の一部に当たるが、小字は「長浪」である。またこの辺り一帯は、陣屋と俗称され、江戸初期に西尾隠岐守吉次の陣屋が設けられていたとも伝えられている。西尾氏は天正十八(一五九〇)年小田原北条氏滅亡後、徳川家康の関東入国時に五千石の領地を与えられ、原市(上尾下村)に陣屋を設けている。上村に陣屋が所在すると二つの陣屋が併存したことになり、やや信びよう性に欠けるが、西尾氏にとつては政治上の重要地点であったともみられる。当時上村から菅谷村一帯は「桶皮郷」であり、西尾氏がこの桶皮郷の中の中山道沿いの地に「桶川宿」を新設しているのも、この地域を重視していた一例である(『上尾市史第三巻』・『新編武蔵風土記稿』)。

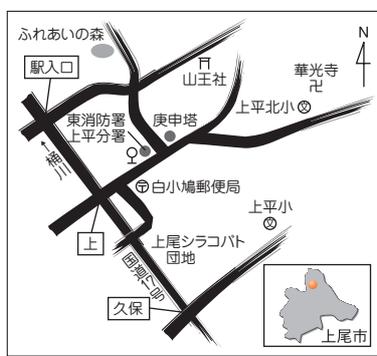


道路標示が刻まれている庚申塔

七六八)年四月の建立であり、道路標示が刻まれている。向かって右側に「南、原市一里(里)半、東、しやうぶ(菅蒲)二里(里)」、左側面に「西、おけがわ(桶川)、北、かうのす(鴻巣)二里(里)」とある。この記述を見ると、上村の中でもこの辺りは交通の要衝の地であったものと推定される。ところで上村は、江戸時代の後期にこの辺りで盛んに栽培された「武州紅花」の創始者が、この村の出身者であることと知られている。「武州紅花」の栽培開始については不明な点が多いが、江戸町奉行所が訴訟事件の経緯を記した書物の中で、江戸の紅花問屋柳屋五郎三郎の手代が、上村の「七五郎」に最上の紅花種を与えて栽培させたのが始まりと記している。栽培の始まりは「天明」(一七八一〜八九年)

とも、「寛政」(一七八九〜一八〇一年)とも記され甚だあいまいである。「七五郎」についても不明な点が多く、地元からの資料の発見はまだまだなされていない(『諸問屋再興調査』・『上尾市史第二巻』)。

上平分署の東の道路をやや曲折しているが五百五十メートルほど北上すると、信号のある交差点となる。交差点の傍らに庚申塔が見られるが、この辺りの小字は「熊野」であり、さらに北へ進むと小字は「大久保」へと変化していく。この辺りは近世期には入会地であったが、その後分割されたため飛び地が残されており、現在でも上・南・久保などの地番が混在している(『上尾歴史散歩六十八』へ「広報あげお」平成八年十一月一日号)。(元埼玉県立博物館長・黒須茂)



○に入る文字や数字を当ててください。

ことしは、国民読書年です。記念企画として、「みんなでつくる!○○○まつり」が開催されます
(ヒントは6ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、10月20日(水)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp
【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は11月号のこのコーナーで。前号の答えは「統計」でした。ご応募ありがとうございました(応募者50人)。

市の人口・世帯
(平成22年9月1日現在)

22万7,034人

男/11万3,593人

女/11万3,441人

※前月より23人増。

9万2,020世帯

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。